

「根室における生活綴方事件」

日本共産党根室市連合後援会（山口庄一郎会長）は3月21日、「根室における生活綴方事件」と題した集いを開催しました。講師は元小学校校長の飯倉定賢氏。後援会員をはじめ多くの市民が参加し、熱心に耳を傾けました。



お話しする飯倉定賢氏

「生活綴方事件」とは？
綴方とは今でいう作文教育のこと、生活綴方とは、子どもたちが生活の中から発見したこと、考えたこと、感じたことなどを生き生きと表現した作文、また、これを推進する活動のことです。1910年前後に始まったといわれています。

「生活の中で発見したこと、感じたことなどをそのまま作文として表現する」。現代に生きる私たちにとつては当たり前のことのように思われますが、なぜそれが「事件」になったのでしょうか。そこには、稀代の悪法、「治安維持法」の存在がありました。

「治安維持法」とは？
1925年、国体の変革や私有財産制度の否認を目的とした結社を組織したり、参加したりすることを取り締まるために定められました。後の「改正」で、最高刑に死刑が導入されたほか、結社の仲間でなくても目的遂行のための行為をしたとみ

なされれば処罰されました（2月26日付朝日新聞より）。日本共産党員でもあった作家の小林多喜二が治安維持法違反容疑で特別高等警察（特高）につかまり、さまざま拷問で命を落とすことが広く知られています。

では、なぜ「生活綴方」が治安維持法、特高に目をつけられたのでしょうか。小樽商科大の荻野富士夫特任教授によると、（生活綴方によって）困難な生活を見つめれば社会への問題意識を生み、反体制的な思想を受け入れやすくなると（特高が）判断したからです。1940年から取締りを始め、終戦までに全国で約300人の教師が検挙されました。

根室での生活綴方事件
1934年、旭川師範学校を卒業した横山真（まこと）は厚床高等小

児童などを目前にして横山は悩み、生活のありのままをつづらせて子どもたちに生きる意欲をもたせようと、35年に結成された道生活綴方連名の創立に最も若いメンバーとして参加します。子どもたちを心から愛して未来に希望をつないだ活動が特高の目にとまり、新婚2カ月目の1940年11月20日（当時は十勝郡大津小勤務）、治安維持法違反で検挙され、2年半の長期拘留、中危篤状態に陥り仮出所、43年10月12日、28歳の若さで亡くなりました。

1968年から厚床小で教鞭をとっていた講師の飯倉氏は、高等小学校の卒業生たちに横山のことを聞くと、「あんなすばらしい先生はいなかった」と皆が口をそろえたそうです。飯倉氏は、横山夫人にお話を聞いたことや、足寄町にある墓碑を訪ねたことなども紹介しました。

当たり前のことをして検挙され、命まで失う暗黒の時代。決して逆戻りさせはなりません。

市議団ニュース

共にしあわせ産みだす日本共産党

第1911号

2019年4月14日

日本共産党根室市議団

根室市宝林町4-203

TEL 23-6023

FAX 24-1684